

学習資料①【被差別身分の人々が行っていた仕事】



下駄づくり



紺屋



壁ぬり



染め物



屋根なおし



箒づくり



渡し守

【皮革業】牛や馬の皮を使って、武具や太鼓などの皮革製品を作る仕事。

【はき物づくり】草履など。特に雪駄は高級品だった。

【竹製品の製作販売】かごやざるなどの生活用品やお茶や生け花の道具などを作ったり売ったりする。

【薬売りや医者】

【灯心づくり】

【砥石づくり】

【染め物・織物】

【車引きなどの運送業】

【芸能】獅子舞，春駒，猿回しなどの芸能は，日常の悪事をはらい清める祝いの芸能でした。



皮加工



鵜飼い



甲冑づくり



馬医者

江戸時代には，職業とは別に「役」という仕事を与えられました。

武士…軍役（城や石垣などを作ったり，修理したりする）

百姓…夫役（河川や道路の修理）町人…町役・職人役（町づくりのためのお金を出す）

被差別身分…行刑役（犯罪人のそうさ，逮捕，刑の執行），皮役（死牛馬の処理，皮革）

また，百姓一揆をおさえたり，一揆のリーダーの処刑の役を負わせられたりしました。

学習資料②【被差別身分の人々を取り締まる法令】

一七七八年 幕府が出した法令	安永七戌年十月 風俗之儀ニ付御触書	近來等之類風俗悪敷百姓町人江對致法外之働或ハ百姓躰ニ紛し旅籠屋商賣小酒屋等江立入見咎候得ハ六ヶ敷申懸候得共百姓町人等ハ外間ニ拘致用捨置候故法外致増長就中中國筋之茶筥之類盜賊・・	<p style="text-align: center;">「徳川禁令考」より</p> <p>【法令の意味】</p> <p>百姓・町人に対し、無礼なことをしたり、百姓・町人にまぎらわしいことをしたりしたときには、厳しく処罰する。</p>
-------------------	----------------------	--	---

【差別政策を強化した事例】

- 1695年… 村の周りを竹垣で囲むこと。正月の門付け（芸能）には出ないこと。神社の祭りでは、しめ縄の内に入らず、外から見物すること。（幕府）
- 1699年… 差別されていた人々の衣類は、百姓の衣類よりも粗末なものを着るように。（阿波藩 徳島県）
- 1742年… 城下の差別されている人々は、今後町を歩くときは、必ず住む村の名前を書いた札を下げることを命じる。（高田藩 新潟県）
- 1743年… 差別されていた人々が「商人にまぎれこんで呉服や染物類を商っているのは不届きである」として禁止した。（長州藩 山口県）
- 1776年… 差別されている人々は、もともと人と見なされていない者で、商売のほかは百姓や町人と交わる筋合いのものでないから、人々の集まる場所にまかり出ないようにと領内に通達を出した。（加賀藩 石川県）
- 1778年… えた身分・ひにん身分の風俗取り締まり令
※ 幕府から出された取り締まり令では、被差別身分の人がまぎれているのを見逃したものを罰することが記された。
- 1779年… 百姓のような格好や、百姓に無礼なことをしてはならない。
- 1780年… 人が集まるところへ入ってはならない。町への出入りは午後5時までとする。（土佐藩 高知県）
- 1798年… 5寸四方の毛皮を着物や家に付けさせた。（大州藩 愛媛県）
- 1815年… 被差別部落以外の村の用事では、土間におしろを敷くように。（松代藩 長野県）
- 1839年… 見回り役に使う提灯に、「〇〇村」の名を記せ。（土佐藩 高知県）
- 1855年… 着物は無紋・渋染め・藍染めの着物に限る。（岡山藩 岡山県）

このような差別の中でも、田畑を切り開き、それぞれの仕事で年貢を納めました。中には、仕事で富を得る者たちも出てきました。他の村は人口が増えないのに、被差別身分の人々が住んでいた村では、人口が増加し続けたことが統計からも分かっています。

学習資料③

「誇りをもって生きる」 ある太鼓職人の話から

大昔の人々は、生活に必要な仕事を自分たちで行っていました。例えば、大型の獲物を協力して捕獲し、皆でその肉を分け合いました。農耕が始まって、共同で農作業をしたり、道具を作ったり、動物を飼ったり、動物を処理したりしていました。

しかし、時代が進み、農業をする人、道具を作る人、物を売る人など、仕事を分担するようになりました。その結果、その仕事にくわしくなり、専門的な技術も生まれていきました。一方では、次のようなことも起こっていきました。

例えば、動物を処理する仕事やさらにその動物の皮を使って生活に必要な物を作る仕事をしている人は、仕事の技術を高め、よりよい技術や物を生み出していきます。しかし、それ以外の仕事をしている人の中には、動物を処理する仕事が、命をいただき、生かしている仕事であることを考えない人が出てきます。

また、当時の人々は死や病氣、天変地異※などを非常におそれました。死んだ動物を扱う仕事などに対して誤った見方（誤解や偏見）をするようになり、特定の人たちを自分たちとは違った存在として、さけるようになりました。

牛の皮を扱う太鼓づくりの人々も同じように社会からはずされていきました。江戸時代には、被差別身分として身分を固定され差別されました。

私たちの祖先は、祭りを盛り上げる太鼓を高い技術で作りあげましたが、祭りへの参加をこばまれたことがありました。祖先たちは、自分たちの作った太鼓の音をどんな思いで聞いていたのでしょうか。

牛の皮は、江戸時代、武士の命を守る鎧になりました。牛革のくつやバック、ランドセルは今でも高級品です。野球のグローブも外国人に人気の甲冑も牛革です。牛の皮は丈夫なので、他にもたくさんの物に使われています。

私の亡くなった父や祖父たちは、皮革産業（皮を使って様々な道具などを作る仕事）に対する誤った意識を周囲から感じながら、太鼓を作り続けてきました。私自身もそう感じる時があります。しかし、私には、そういった周りの人々の差別意識に対する怒りや、おかしさ、悲しさを包みこむほどの、『洗練された技術※』と、『生き物の命を生かしている』という自覚があります。私は、それらすべてを『誇り』に思い、一生けんめい太鼓を作っています。太鼓を作るということは、牛の命をうばい、いただき、生かしていることだと強く実感しています。

これからも、「つくり手」の思いや技術を大事にしながら、皮革産業である太鼓づくり職人としての技術をさらに高めていきたいと考えています。

「天変地異」…台風や地震、火山の噴火などの自然災害。

「洗練された技術」…さらにみがき上げられた高い技術。

